



# 野生植物研究所だより



## ● 夏の「網地島」一泊観察会の下見へ ●

来る8月20日と21日、宮城植物の会で、金華山のすぐ隣の「網地島」での一泊観察会を予定しております。先日、観察会当日と同じように泊まりで網地島へ「下見」に行ってみました。観察会当日に参加者に観察できる植物としてリストアップした目録のプリントを配布することになっておりますので、下見では出てきた植物すべての種類を記録してきました。



ウミネコと網地島

**【網地島（あじしま）の紹介】** 網地島は捕鯨の港として知られる鮎川より船で20分の所にある島です。3月までは牡鹿町でしたが合併により4月から石巻市となりました。昭和40年頃は島の人口も3000人を数え小・中学生を合わせると500人ほどいたのですがその後年々島を離れる人が増え過疎化が進み、ついに学校に入る子供たちもいないという状態となり、小学校も中学校も閉校となりました。その小学校は現在「網小医院」として利用され、中学校は「島の楽校（がっこう）」、学校の“がく”には「楽しい」という字をあてており、宿泊施設として利用されています。

**【大崎地方で見られない植物】** 最初の観察地は長渡（ふたわたし）にある宿から灯台のあるところへ向けてのコースです。手帳に書き込んだ順番に植物を30種類ほど紹介しますと、センダングサ、アカカタバミ、ノボロギク、ウシハコベ、ヨモギ、セイヨウタンポポ、ツユクサ、スイカズラ、ヒメムカシヨモギ、ヤダケ、オニタビラコ、ノコンギク、センニンソウ、キズタ、ノゲシ、ハキダメギク、ラセイタソウ、イタドリ、ツタウルシ、キバナノカワラマツバ、ススキ、トベラ、タブノキ、トラノオシダ、スベリヒユ、



スカシユリ

メヒシバ、エノキ、ヒルガオ、オオジシバリと続きます。なかでも、センダングサ、ラセイタソウ、トベラ、タブノキの4種類は大崎地方では見られない植物です。これらの植物は県内では海辺や島などに見られますが、網地島ではそのような種類の植物が沢山見られます。ちなみに大崎地方では見られない植物を灯台のある所に向かう順に記録したものを拾ってみますと、**スカシユリ、イブキゼリ、ハマナス、コウボウシバ、テリハノイバラ、オオバイボタ、コハマギク、ハイビヤクシン、ヒサカキ、ハマボス、ハチジョウナ、エゾオオバコ、ハマギク、ハマナデシコ、アサツキ、ハマヒルガオ、ハマゼリ、トウオオバコ**が上げられます。



ハマナス



ハマナデシコ

**【東北地方では宮城県だけに分布するシャジクソウを目指して】** 次は海に突き出た岩場に見られる**シャジクソウ**を観察するコースの下調べです。シャジクソウは山地の草原や海岸に生える多年草のマメ科の植物です。茎はそう生して斜上し高さ20～40センチ、葉は3から5枚の小葉からなり、小葉は長さ1.5～4センチ、幅5～10ミリほどです。花は6月から9月にかけて咲き、花の色は赤紫色で花の長さは1センチ2ミリ前後です。分布は中部地方や奥羽地方、北海道、千島、樺太、朝鮮、中国ですが東北地方では宮城県だけに分布し、それも江ノ島と網地島だけから見つかった植物で分布上も大変貴重な植物なのです。網地島でも海に面した岩場のか所で見られるだけです。そのシャジクソウのある岩場を目指していったのですが、途中から道らしい道がない状態になりました。以前は人が通れる道があったわけですが、刈払いなども長年されないままになっているため草に被われてしまったのです。昔は磯回りをするための山道も現在は誰も利用しない状態になったことによるものです。ですがやっとのことでシャジクソウのある場所にたどり着きました。花は終わりが加減でしたが10枚ほど写真におさめました。シャジクソウが生える岩場はあまりにも危険な場所でもあるので、観察会当日の観察はしないこととしました。



シャジクソウ

今回の下見で「網地島」の魅力を再発見することができ、観察会当日がますます楽しみになりました。ぜひ、機会がありましたら、ゆっくりと「網地島」を訪れ、美しい大自然、豊かな海の幸などを楽しんでみてはいかがでしょうか。